咽頭クラミジア感染

東京女子医科大学東医療センター耳鼻咽喉科准教授
余　田　敬　子
（聞き手　池田志孝）

咽頭クラミジア感染についてご教示ください。

患者（女性）より検査希望があり、淋菌およびクラミジアトラコマチスγRNA同時同定（咽頭ぬぐい液）でクラミジア陽性でした。

1．感染しているにもかかわらず、口腔、咽頭所見が、ほぼ正常な理由。

2．クラリスロマイシン400㎎/日を２週間投与後、陰性になりましたが、抗生物質の選択について。

3．もし、検査、治療せずにクラミジア感染を放置しておくとどうなるのか。咽頭所見は、変化が見られるのでしょうか。

＜愛知県開業医＞

池田　質問の内容、これはどういったことなのでしょうか。最近多いことなのでしょうか。

余田　最近、耳鼻科でも咽頭の性感染症の検査を希望する方が増えています。性感染症がオーラルセックスを介して感染するということが一般的にも認知されるようになり、それを心配して耳鼻科にも、のどの性感染症、特に淋菌、クラミジアの検査をしていただきたいという方がけっこういらっしゃるようになってきました。多分そういう中でこういう質問をいただいたのではないかと思います。

池田　これは政府が広報しているということなのでしょうか。

余田　2012年１月の厚生労働省の性感染症に関する感染症予防指針の中でも、性感染症は性器のみならず、口腔からも感染するというふうに改訂されましたし、2012年11月にちょうどそういう「オーラルでもうつります性感染症」というポスターが同省のホームページにアップされました。日本性感染症学会でも４～５年前から口腔・咽頭の性感染症に注目してアピールしてい

ますし、いろいろな検査会社からオーラルセックスを介した性感染症に対する啓発活動が、最近さらに進んでいるような状況にあります。そういった中で、性感染症クリニックではなくて、耳鼻咽喉科にも、のどの性感染症を検査していただきたいという方が、これからますます増えていくのではないかと思われます。

池田　この女性患者さんはそういったことをどこかで聞かれて、念のためという感じで来られた。そういう意味では、感染しているにもかかわらず、口腔・咽頭所見がほぼ正常であるということなのですけれども、逆に何も症状がなくても疑って検査をしなければいけないということですね。この正常な理由というのは、何か最近の知見はありますか。

余田　理由というのはちょっと難しいのですけれども、実際、性感染症である梅毒、ヘルペス、クラミジア、淋菌の中でも、特にクラミジアの患者数は非常に多く、その理由が、性器に感染しても、咽頭に感染しても、このように所見がなくて症状がない、無症候性感染が多いということが指摘されています。特に、核酸増幅法で検査をすると、非常に簡便に感度高く検出できるようになりましたので、淋菌、クラミジアも咽頭感染している多くの方が症状もなくて所見もない、無症候性感染であることがわかってまいりました。

私どもの研究でもそうでしたし、ほかの先生からも次々とそういう研究結果が出ておりまして、性器感染のクラミジアは非常に無症候性感染が多いので、炎症を起こしにくい状態でそこに感染しているのではないかと思われます。ただ、無症候性感染でも他者への感染源になってしまうというところが問題なのです。

池田　その意味から、最近は性病といわないで、性感染症といって、無症候性のものを含めて感染してしまう。そういう意味でSTIという言葉に変わったのではないかと私は理解していますけれども、感染しているにもかかわらず症状がない。しかし、やはり治療ということになりまして、２つ目の質問ですと、クラリスロマイシン400mg/日を２週間投与後、検査上、陰性になりました。抗生物質の選択はよろしいでしょうかという質問ですけれども、この辺はいかがですか。

余田　この治療で問題ないと思います。性感染症の治療に関しては、日本性感染症学会からガイドラインが出ていまして、一番最新の2011年度版でもクラミジア感染症の治療として推奨ランクAになっているのが、アジスロマイシンの１g単回投与とこのクラリスロマイシン400mg/日の１週間投与ですので、この先生がされた400mg/日２週間投与は、期間も十分ですし、問題ないと思います。

池田　選択は問題ないということですね。

余田　問題ありません。

池田　もう一つ、症状がないものですから、検査、治療をせずに、クラミジア感染を放置しておくとどうなるか、咽頭の所見は変化が見られるのでしょうかという質問ですけれども、これはいかがですか。

余田　治療せずに放置しておくとどうなるかということですが、クラミジアは成人型封入体結膜炎の原因でもあり、眼科のほうでクラミジアの結膜炎が起こった方の約半分から７割ぐらいに上咽頭炎を起こすという報告もあります。結膜から鼻涙管を通って鼻腔から上咽頭に、上咽頭炎から中耳炎の併発も多いということが、古くは1960年代から報告されております。ですので、上咽頭炎を起こすというのは間違いなくありますから、放置しておくと、クラミジア性の上咽頭炎になって、のどが痛いだけではなくて、鼻づまりとか耳のつまった感じの難聴になる可能性があると思います。

ただ、咽頭は常に飲んだり食べたりして洗い流されているところですので、菌がそんなに増えないまま、無症状のままに、もしかしたら自然に治ってしまう可能性もあると考えている研究者もいます。ただ、治療をしないで経過を見たという研究があまりないので、そういう可能性もあるということです。

池田　治療せずに放置しておくことで、患者さんご自身の性器とかパートナーへの感染に関してはいかがでしょうか。

余田　治療しないままですと、無症状でも、パートナーの口腔や性器に感染する可能性が高いのです。またパートナーを介してご自身の性器に感染しますと、男性も女性も不妊の原因になりうることが、クラミジア感染の大きな問題となっています。治療しないまま放置しておくと、将来、不妊になる可能性がありますから、やはり治療が必要になってくると思います。その場合の性器感染も、症状がないまま経過して不妊になるということも多いようですから、疑った時点で検査して治療するということは非常に大事なことだと思います。

池田　咽頭でクラミジア感染陽性となりますと、女性の場合、性器の感染もあるかないかとか、検査が必要かと思いますけれども、このあたりはいかがなのでしょうか。

余田　できれば、咽頭が陽性の場合は性器の検査もしたほうがいいと思うのですが、先ほどお話ししましたように、治療は性器も口腔も同じ治療ですので、そのまま治療されて、治療したあとに、ちゃんと治っているかどうかを口腔か性器で確認するという方法もあります。もし特定のパートナーがいらっしゃるのであれば、特定のパート

ナーのほうの検査も必要になってくると思います。

池田　併せて治療するということですね。

余田　併せて治療しないと、治ったあとも、またパートナーから再感染してしまうということもあります。

池田　性器感染があっても、例えばクラリスロマイシン400mg/日を１週間、これで十分治療効果があるということでしょうか。

余田　十分効果があります。クラミジア治療のガイドラインに関しては、2011年度版は日本性感染症学会のホームページからご覧になれますので、ぜひ興味のある先生には見ていただきたいです。ガイドラインにクラミジアに関する臨床的な症状や検査法や治療法も、載っていますので、参考にしていただけると思います。

池田　この方は、淋菌およびクラミジアの両方の検査を行って、クラミジアだけが陽性であったということですけれども、淋菌の陽性者というのは多いのでしょうか。

余田　淋菌とクラミジア、どちらも無症候性のことが多いので、同時に検査をされることが多いのですが、私の研究では、咽頭から出るのは淋菌のほうが高率でした。特に、耳鼻咽喉科で咽頭から検査しますと、淋菌が陽性の方がクラミジアが陽性の方よりも今のところ多いようです。しかも、お話を聞くと、淋菌の陽性者は男女とも性風俗に関係した方が多いということもわかっています。

池田　そういった場合、再感染予防といいますか、治療後ですけれども、再感染予防についての指導というのはどういうことをされるのでしょうか。

余田　感染源も含めてよくお話をうかがって、風俗が関係している場合には、行かないか、プロテクトを完全にするように指導します。特定の方がいる場合にはパートナーも検査をしてもらって、一緒に治療して治すようにという指導をさせていただいています。

池田　ありがとうございました。